



株式会社 小松製作所 コマツグループ サステナビリティ・リンク・ボンド ボンド発行後 外部検証書(第 3 回、トリガー事象判定年度)

Project No.: PRJN-419254-2023-VER-JPN-03

<検証の範囲>

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社はコマツグループ(以下「コマツ」)より、サステナビリティ・リンク・ボンド^{※1}の発行前に定めた KPIs^{※2}/SPTs^{※3}の 2024 年度の進捗状況の算定結果に基づくサステナビリティ・リンク・ボンドのトリガー事象^{※4}の達成状況に関して、当該ボンドが適用する原則及びガイドライン等に基づき、外部検証を依頼された。

- ※1 Komatsu Finance America Inc.を通じた米ドル建無担保普通社債(サステナビリティ・リンク・ボンド)
(発行額: 6 億米ドル、年限: 5 年、償還期日: 2027 年 10 月 6 日)
- ※2 KPIs: 重要業績評価指標 Key Performance Indicators
- ※3 SPTs: サステナビリティパフォーマンスターゲット Sustainability Performance Targets
- ※4 トリガー事象: KPI が事前に設定した SPT に達成したかどうかを観察した結果であり、債券の財務的及び/又は構造的特性の変化を引き起こす可能性がある(国際資本市場協会、サステナビリティ・リンク・ボンド原則より引用)。

<算定・検証基準>

KPIs/SPTs の算定基準は、2025 年 8 月 28 日にデロイト トーマツ サステナビリティ株式会社から限定的保証を受けている基盤となる GHG データを正確な情報として扱い、KPIs/SPTs 毎に定めるコマツの内部算定手順に基づく算定結果について、DNV が、サステナビリティ・リンク・ボンドとして求められる検証(限定的保証)及びトリガー事象の達成状況について判定を行うものである。

<検証声明>

DNV の限定的保証水準に基づく意見として、サステナビリティ・リンク・ボンドの発行実行前に定めた KPIs/SPTs の 2024 年度の進捗状況の算定に基づくトリガー事象の達成状況の判定の主張に関して、同社の KPIs/SPTs を適正に反映していないことを表す誤りは認められなかった。

<検証プロセスと方法論>

上記算定検証基準への適合性は算定報告書、関連する文書記録類及び提供された十分な証拠のレビュー、要員へのインタビューによって確認された。

KPIs	SPTs	SPTsトリガー事象判定結果 (検証結果)
KPI-1: 生産による CO ₂ 排出(原単位)	SPT1.1: 2024 年に 2010 年対比で 45%削減 SPT1.2: 2030 年に 2010 年対比で 50%削減	SPT1.1 トリガー事象判定: 達成 2024 年時点で 2010 年対比で 55%削減
KPI-2: 製品使用による CO ₂ 排出(原単位)	SPT2.1: 2024 年に 2010 年対比で 24%削減 SPT2.2: 2030 年に 2010 年対比で 50%削減	SPT2.1 トリガー事象判定: 未達成 2024 年時点で 2010 年対比で 23%削減 →2025 年 10 月 6 日以降、+0.15%のクーポンステップアップ(ベース利率: 年 5.499%)

The verification has been performed under supervision of:

Independent Validation Verification Body:
DNV Business Assurance Japan K.K.

Masato Kanedome
Project Leader
12th September 2025

Naoki Maeda,
Representative Director / SCPA Senior Vice President
12th September 2025



<KPIs/SPTs の算定>

KPIs/SPTs の対象期間は、いずれも 2024 年 4 月 1 日より 2025 年 3 月 31 日である。DNV の検証意見として当検証書の算定は、現実性・透明性・測定可能性のあるものである。

<算定範囲の決定基準>

KPI-1：コマツが定める国内外主要生産事業所から排出されるCO₂(エネルギー起源のみ、Scope1及びScope2に関連)及び内製金額※

※2021年度に内製金額の算定範囲を変更したが、基準年(2010年度)及びSPTsへの影響は無視できることを確認した。

KPI-2：コマツが定める建機の出荷台数等を車格グループに区分した上で、標準的な使用条件(製品稼働条件)のもとで直接排出※されると計算されるCO₂(Scope3 カテゴリー11、2021年度より算定範囲(対象製品)を拡大したことにより、基準年(2010年度)のCO₂排出は増加したが、KPI-2について適切な算定条件の規格化が行われており、SPTsの進捗評価への影響は無視できることを確認した)

※電動化された建機等については直接的な排出は無いため排出ゼロとする。

なお、KPI-1及びKPI-2についてCO₂排出係数の更新があったが、サステナビリティ・リンク・ボンドのKPIとして基準年との比較(進捗状況に基づくトリガー事象判定)を行う観点で、SPT算定では基準年と同じ CO₂排出係数を使用した。

<検証された KPIs/SPTs>

KPIs	SPTs トリガー事象判定結果(検証結果)
KPI-1：生産による CO ₂ 排出(原単位)	SPT1.1 トリガー事象判定：2024 年時点で 2010 年対比で 55%削減…達成
KPI-2：製品使用による CO ₂ 排出(原単位)	SPT2.1 トリガー事象判定：2024 年時点で 2010 年対比で 23%削減…未達成 → 2025 年 10 月 6 日以降、0.15%のクーポンステップアップ(ベース：年 5.499%)

<KPI/SPT-1(SPT1.1)トリガー事象判定(進捗状況)>

2024 年度生産による CO ₂ 排出(原単位) …A	45%
2010 年度生産による CO ₂ 排出(原単位) …B	100%※
SPT-1.1 トリガー事象判定(進捗状況) (B-A)	55%削減

※算定範囲の変更が行われたが、基準年及び SPTs への影響は無視できる

<KPI/SPT-2(SPT2.1)トリガー事象判定(進捗状況)>

2024 年度製品使用による CO ₂ 排出(原単位) …A	77%
2010 年度製品使用による CO ₂ 排出(原単位) …B	100%※
SPT-2.1 トリガー事象判定(進捗状況) (B-A)	23%削減

※算定条件の規格化が行われたが、SPTs 進捗評価への影響は無視できる

上記 SPTs 進捗状況に基づくトリガー事象判定はすべて検証済みである。

<検証意見>

☒ 無限定適正、☐ 限定適正、☐ 意見差し控え

DNV は、本検証業務に限らずグループレベルでコマツと財務上の関連性がないことを表明する。